

奥多野における大型菌類の調査

静野 聡 (群馬県立自然史博物館)

1. はじめに

奥多野地域は、群馬県の南西部に位置し、東西に神流川が流れ、急峻な山々が連なる地域である。自然史博物館では、平成 22～25 年度にかけて上野村に自生する大型菌類を調査した。大型菌類とは、肉眼的な大きさの子実体を形成する菌類、きのここと総称される担子菌類や子囊菌類の一部を指す (日本菌学会,2013)。

平成 26～28 年度から 3 カ年は、上野村と隣接する奥多野地域及びその周辺町村の大型菌類の基礎的情報収集を目的として調査している。今回は、その途中経過を報告する。

2. 調査方法

調査及び種同定は、群馬県林業試験場きのこ係の指導の下、行った。採集時に写真撮影及び採集環境、基質などの状況を記録した。採取した大型菌類は現地で色や形、味、臭い、変色性などの特徴を記録し、種の同定を行った。顕微鏡的観察が必要な種については博物館において検鏡を行った。同定作業後は、送風乾燥法及び真空凍結乾燥法により証拠標本を作製し、收藏した(金井, 2011; 篠原, 2014)。

3. 調査結果

平成 26 年度の調査では、神流町、上野村、下仁田町において 72 点の標本が採集された (篠原, 2014)。今年度は上野村、下仁田町において登山道及びその周辺の調査を行い、136 点の標本を採集した。子囊菌門は 4 科 4 種、担子菌門は 32 科 92 種である。子囊菌門では、ズキンタケ科のズキンタケ、クロサイワイタケ科のチャコブタケ、ノボリリュウタケ科のナガエノチャワソウタケ、ピロネマキン科のスクテルニアエリナケウスである。担子菌門では、ベニタケ科 (11 種)、タマチョレイタケ科 (9 種)、イグチ科 (8 種)、ツガサルノコシカケ科 (6 種)、テングタケ科 (5 種) を確認した。

表 1 調査実施日と採集した主な菌類

調査日	調査場所	主な大型菌類
5月20日	下仁田町青倉	御荷鉾スーパー林道
	上野村乙父	御荷鉾スーパー林道
7月29日	上野村勝山	まほ一ぼの森
9月11日	上野村檜原	十石峠展望台周辺
10月22日	上野村野栗沢	天丸山登山道周辺

【引用文献】 日本菌学会(2013):大形菌類.菌類の辞典.朝倉書店,p299

金井英男(2011):大型菌類.群馬県立自然史博物館自然史調査報告書,(5):72-73

篠原克実(2014):上野村の大型菌類.群馬県立自然史博物館自然史調査報告書,(6):27-28

キーワード: 奥多野、大型菌類、きのこ、子囊菌、担子菌